

## 一宮町新庁舎建設基本構想・基本計画の概要

- ①建設位置…現庁舎敷地内
- ②建設規模…2,300㎡を上限とする
- ③基本理念…誰もが利用しやすい、まちづくりと防災の拠点
- ④構造…鉄筋コンクリート造
- ⑤建設手法…設計・施工一括発注方式
- ⑥業者選定方法…公募型プロポーザル
- ⑦総事業費(概算)…7億5,000万円
- ⑧建設スケジュール(予定)…  
平成24年度 設計開始、平成25年度 建設工事

### ①建設位置…現庁舎敷地内

現庁舎敷地は、町の中心に位置し、町民の利便性、交通アクセスが良く、また、新たに建設用地を取得する必要がないため、早期に建設ができ、造成費や取り付け道路の費用も抑えられます。

さらに、災害対策として、保健センターや中央公民館などとの連携により、災害時の支援活動の連動性が高いため、大津波以外の災害への対応がしやすいです（※地震、台風、洪水、竜巻、雪害、伝染病、放射能汚染、大規模な交通や海難事故など）。また、大津波が来襲した場合には、新庁舎が住民の一時避難所となります。

### ②建設規模…2300㎡を上限とする

地方自治体の庁舎規模算定の標準的方法である、総務省の「地方債事業の標準面積算定基準」を基本に算定し、2300㎡を上限とすることとしました。

### ②基本理念…誰もが利用しやすい、まちづくりと防災の拠点

- 町民サービスの向上が図られ、効率的な行政経営の場  
…誰にでも使いやすい庁舎を目指し、サービスの向上や機能的な執務空間を確保します。
- 防災拠点としての機能  
…大規模地震にも対応できるよう耐震化を図ります。また、大規模災害時は災害対策拠点として機能し、大津波の発生時には津波一時避難所として避難者を受け入れます。

●議会活動を推進する場

…誰もが容易に傍聴できる席を整備し、また、閉会時などは、議場や委員会室などを他の目的にも有効活用します。

●維持管理を考慮した経済的な庁舎

…建設や維持管理のコストに十分に配慮し、組織改編などへの自由度の高さ、省エネルギーなどについても検討します。

### ③構造…鉄筋コンクリート造

新庁舎は、大津波にも対応できるよう、新庁舎は4階建て以上で建設し、高層階に災害対策本部を設置します。また、大津波発生時には、3階以上の階層を住民のための津波一時避難所として機能させます。

このことから、津波に強い鉄筋コンクリート造で新庁舎を建設します。

### ④建設手法…設計・施工一括発注方式

この方式は設計・施工を一括して業者に発注する方法です。これにより、民間のノウハウを有効活用でき、事業期間の短縮や、建設費用の縮減が期待できます。

一方で、監督・検査などを強める必要性が大きくなるため、専門知識を持つ民間団体に、業者選定のための技術的支援や、設計・施工の監査などを委託して対応します。

### ⑤業者選定方法…公募型プロポーザル

この方法は、価格のみの競争ではなく、技術提案書等の価格以外の要素を評価し、最も評価の高い者を落札者とする選定方法です。

設計・施工業者の創意工夫を十分に生かした契約を締結することができ、また、公平性も確保されます。

### ⑥総事業費（概算）…約7億5000万円

●事業費の内訳は以下のとおりです。

〔設計費・建設費〕	約6億2,100万円
〔什器・備品〕	約3,450万円
〔現庁舎取壊し・舗装費〕	約3,720万円
〔庁内ネットワーク設備等移設費〕	約3,600万円
〔工事発注支援・設計施工監査業務委託費〕	約1,100万円
〔予備費〕	約1,030万円

